

令和 6 度就職先調査 報告書

大学 IR 室 福田 一儀、劉 強

対 象：卒業生が就職している企業・法人（卒業生の上司等）

実施時期：スポーツ健康福祉（R6 年 12 月）、子ども生活（R6 年 9 月）、ビジネス文化（R6 年 8 月）、
ビジネス文化（東京キャンパス）（R7 年 5 月）

実施方法：教職員が就職先企業・法人（各専攻 1 社）を訪問し、卒業生の上司等に半構造化によるインタビュー調査を実施した。調査内容は、①大学 DP を満たす人材かどうか、②採用時から現在の卒業生の成長・変化、③卒業生の評価できる点、強み、④卒業生の課題、⑤大学生に求める能力、⑥至誠館大学の就職支援について、⑦その他、について尋ねた。①については、各設問について「期待以上である」「期待通りである」、「期待したほどではない」、「期待外れである」、「分からない」の 5 段階で回答を求めた。

1. 調査結果

1-1. 大学 DP を満たす人材かどうか

	スポーツ 健康福祉専攻	子ども生活学 専攻	ビジネス文化 専攻	ビジネス文化 専攻（東京）
仕事を理解するための常識が身につけていましたか	期待通り	期待通り	期待通り	期待通り
専門的な知識や技術を身につけていましたか	期待通り	期待通り	期待通り	分からない
よく考えて適切な判断ができていますか	期待通り	期待したほど ではない	期待したほど ではない	期待通り
自分の考えをわかりやすく発言できていますか	分からない	期待外れである	期待通り	期待したほど ではない
誠実に・主体的に業務に取り組んでいますか	期待以上	期待外れである	期待通り	期待通り
職場でコミュニケーションが取れていますか	期待通り	期待通り	期待通り	期待通り
報連相を心がけるなど、協調的に行動できていますか	期待以上	期待外れである	期待通り	期待通り

※ 大学の専攻分野と大きく違っているため

1-2. 採用時から現在の卒業生の成長・変化

スポーツ 健康福祉専攻	・営業の基本をマスターし、能力的にも現在は向上しているように思われる。今後は経験を増やすことで、自信を付けることでより一層よくなってくると考えられる。
子ども 生活学専攻	・入職当初は良かった。期待していた部分もあった。現在に至るまで変化しているが、必ずしも成長しているとは言い難い。 ・本人の能力からすると、色々ともっと出来ると思う。
ビジネス 文化専攻	・文系でありながら分析室の校正業務をこなせるようになっており、成長している。
ビジネス 文化専攻 （東京）	・文積極性は増した印象がある。

1-3. 卒業生の評価できる点、強み

スポーツ 健康福祉専攻	<ul style="list-style-type: none"> 評価できる点は、貪欲に仕事に挑戦できる姿勢である。真摯に取り組めるからこそ挑戦する能力が培われているものであると感じられる。
子ども 生活学専攻	<ul style="list-style-type: none"> 元気さ。素直さ。本能に忠実なところ。 子どもたちを引っ張って、一緒に砂場で遊ぶことが出来る。 人を選ばず仲良くできる。 注意されても不満そうな表情はしない。 大きなクラスには向いていると思う。
ビジネス 文化専攻	<ul style="list-style-type: none"> 品質管理部では、耐圧試験、写真による異常検知など、現場で実際の製品を触ることによって、統計手法が感覚的に理解できるようになる。したがって、新入社員の間は、現物に触れることを特に重視している。扱う統計学や数学の内容は、むずかしいものではないので、理解する気があればできる。実際、本学の堀氏も統計手法等を身につけ、後輩の指導を行っている。文系の学生に見られる数字アレルギーがないところが市原さんの強みである。
ビジネス 文化専攻 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> 真面目な点が評価できる。自分の意見などを言うようになった点なども評価できる。

1-4. 卒業生の課題

スポーツ 健康福祉専攻	<ul style="list-style-type: none"> これからの下積み期間をどのように過ごしていくかがカギとなる。今、失敗をしつつ多方面への人脈形成を怠らないことが、重要な課題である。
子ども 生活学専攻	<ul style="list-style-type: none"> 時間の間違いが多い（遅刻、提出物の遅れ）。またその間違いを繰り返す傾向がある。 大雑把な性格なのか、よく物に躓くことがあり、注意力が足りない。現在は未満児さんのクラスを担当していることもあり、子どもを抱っこしたまま、躓き、転んだりすると大変なことになる。生命を預かっているという意識を強くもつことが大切である。 彼女に対しては、時間が必要である。強みを増やして、弱みを減らすことが必要だ ちょっと注意されたら落ち込むことがある。気持ちの浮き沈みがある（私生活で何かあるのかも知れないが、それを自らいう事はない。）。その気持ちの浮き沈みを私たちが気づいてあげないといけないとも思うが、仕事に支障がないようにすることも大切である。 彼女と同時期に入職した職員はよく気が付いて動けるため、どうしても比較されがちである。私たちは、これからも彼女を育てる姿勢であるため、全体的には彼女については期待通りとしたい。
ビジネス 文化専攻	<ul style="list-style-type: none"> 自分の判断で良い部分と上司等にアドバイスを求めてから実行に移すべき場合の適切な判断ができるようになってほしい。
ビジネス 文化専攻 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> 不動産関係の資格取得の勉強をしてほしい。専門的な勉強をすることで知識を増やしてほしい。

1-5. 大学生に求める能力

スポーツ 健康福祉専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・考える能力をもっと培ってほしい。フォローをするからこそ答えを聞くのではなく、自分で行動に移して行って欲しいと感じる。 ・ハラスメントについて、追い込んでいるわけではなくどうやったらできるのかを考えさせるために厳しいことも言う。このことについての理解力も乏しく感じる。
子ども 生活学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守るなど、社会人としての常識。
ビジネス 文化専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・業務報告ではワード、プレゼンではパワーポイントを使うことが多いと思うが、現場で本当に役に立つのはエクセルである。品質管理に限らず、経理や在庫管理など、数字を扱う仕事は多い。また、新入社員の間は、現場の製品に触ってもらうことを重視し、エクセルは使わないが、次の段階に進んだ時に、分析結果等をエクセルでまとめられたら、有利である。 ・文系の方は数字アレルギーを克服してほしい。本社にも文系の大学卒や高卒の社員がいるが、しっかりと業務をこなしている。自分は文系だからと、数字や図が出てきただけで、耳を閉ざされてしまうとどうしようもない。
ビジネス 文化専攻 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守ること。事前に連絡をするマナーを身につけてほしい。

1-6. 至誠館大学の就職支援について

子ども 生活学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・特にわからない。
ビジネス 文化専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・就職支援関係に携わっていないので、よくわからない。
ビジネス 文化専攻 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> ・親切丁寧に対応してもらっている。

1-7. その他

子ども 生活学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的なルールが守れることが大切。それが基本であり、そこからが保育の知識や技術が身に付く。 ・これまでの経験から短期大学より4年制大学の卒業の方が深く考える人が多いため、短期大学卒業者との差別化した教育を求める。
ビジネス 文化専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、海外展開を進めていくので、英語の挨拶等が気軽にできるようになったほうが良いかもしれないが、英検など語学の資格そのものは特に必要ない。 ・業務に必要な資格については、入社後に取得する社員が多い。まず、現場の製品を実際に触ってからでないと、無理に勉強をしてもイメージがわからないので、非効率だと思う。具体的な資格としてQC検定や非破壊検査、エックス線関係の資格

を取得している。QC検定については「QC7つ道具」を使いこなせることが期待される。

- 品質管理部では数字アレルギーがなければ、文系の人でも理解できる範囲の統計や数学しか要求されない(シグマ区間や三角関数、ミルシート上で円管から六角形の切り出しなどがある)。ただし、より高度な数学が扱える自信があるなら、開発や技術設計部があっているかもしれない。
- いずれにせよ、必要な資格等は入社後のトレーニングを通じて取得していくので、在学中に取得してほしい資格は特にない。